

研究開発課題中間評価結果

事業名（年度）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 （令和4年度～令和8年度）
研究開発課題名	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 北海道シ ナジーキャンパス（北海道大学 ワクチン研究開発拠点）
代表機関名（所属 役職）	国立大学法人 北海道大学（創成研究機構ワクチン研究開発拠点・教 授）
研究開発代表者名	澤 洋文

【総合評価】 良い

【評価コメント】

総長直下の独立した組織として本部からの支援を受けつつ、拠点長の裁量で拠点運営を行う体制を構築し、拠点長のリーダーシップの下、学内の豊富な人材や設備を活かした研究開発を行っている。さらに、海外研究者との連携、人獣共通感染症専門家をはじめとした人材育成などの体制も確立している。一方で、拠点を構成する研究者は基礎研究者が中心であり、ワクチン開発につなげるための応用研究を担う研究体制の強化、予定されている研究開発分担者への若手研究者の登用の着実な実施が求められる。

対象感染症として本拠点が得意とするインフルエンザ、コロナウイルス、結核を中心にワクチンの研究開発を進めている。インフルエンザ及びコロナウイルス感染症不活化ウイルス完全粒子混合ワクチンの開発が、「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業」に採択され、ワクチンの実用化に向けて着実に研究開発を実施している。また、WHOに認定されたインフルエンザウイルスの同定や、病原体のライブラリー構築をはじめ、基礎研究のレベルは高い。

インフルエンザワクチン以外は基礎研究の段階に留まっており、実用化に向けての道筋が不明瞭であるため、具体的な計画が求められる。また、本拠点の特色である人獣共通感染症研究を活かした研究戦略、さらに多様な分野の研究者の取り込みにより、我が国の独自ワクチン技術開発につながる分野融合・先端的な研究の強化を進めることが求められる。

企業との連携も着実に進めている。企業と共同でワクチン開発を行うにあたっては、役割分担を明確にして、リスクマネジメントの観点から開発の妥当性や事業性の検討を行うことが必要である。

本事業は感染症有事を見据えた迅速なワクチン開発に資することが目的であり、各拠点で研究開発を進めているワクチンシーズについては、最終的な実装化を意識したタイムラインを設定し、迅速に開発が進むように拠点内で優先順位を明確にして戦略的かつ効率的な研究開発マネジメントを行うことが求められる。

基礎研究に留まらず、ワクチン開発を成功させ、上市されることを視野に入れて本事業を推進してほしい。また、「新規のワクチンを国内で短期間に実装するという最終目標に基礎研究の側面からどのように関わるか」というゴールを見失わないように拠点運営を進めてほしい。

以上